

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		環境ランキングが企業価値に与える影響分析			
研究テーマ (欧文) AZ		A Change in Market Responses to the Environmental Management Ranking in Japan			
研究氏 代表 者	カタカナ CC	姓)タケダ	名)フミコ	研究期間 B	2006 ~ 2007 年
	漢字 CB	武田	史子	報告年度 YR	2007 年
	ローマ字 CZ	TAKEDA	FUMIKO	研究機関名	東京大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻・准教授			
<p>概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)</p> <p>本論文では、企業の環境対策と企業価値に関する研究として、1998年~2005年において、日経リサーチ社が毎年12月に発表している、企業の環境ランキングが、上位100社の企業の株価にどのような影響を与えるのかを、イベント・スタディの手法を用いて分析した。</p> <p>その結果、サンプル期間全体では、上位100社企業の株価は、環境ランキング発表の前後3日間において、統計的に有意な反応を示さなかった。しかし、サンプルを期間で区切ったところ、2001年~2002年を境に、株価の反応が有意に異なっていることが分かった。すなわち、ランクが上がった企業も下がった企業も同様に、1999年~2000年においては、環境ランキングの発表前後で、ネガティブに有意な反応が計測された。一方、2003年以降はポジティブに有意な反応が計測された。この結果より、日本が京都議定書に調印し、環境省が設立され、環境問題への関心が高まった2001年~2002年を契機に、投資家の反応が変化したことが予想される。</p> <p>次に、サンプルを上位 30 社とそれ以降の企業とに分けて計測したところ、株価の反応は、後者のグループで強く現れた。上位 30 社は、環境経営で定評のある企業が多く含まれていることから、この結果は、株式市場の効率性を示唆するものであると考える。即ち、上位企業がランキング入りすることは、市場にとっては、より当然のことであり、反応は相対的に小さいものに留まったが、31 社~100 社においては、ランキング入りによりニュースであるため、市場の反応が大きく出たものと見られる。</p> <p>最後に今回の研究成果は、共同で作業を行った友澤孝規(現在東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻修士課程在籍)との共著として執筆され、現在学術雑誌に投稿中である。このため、発表文献についての報告は、後日改めて提出する予定である。</p>					
キーワード FA	環境ランキング	企業価値	イベント・スタディ	ファイナンス	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

